

氏名	井上 直子
学位の種類	博士(看護学)
報告番号	甲第81号
学位記番号	看博第32号
学位授与年月日	平成30年3月20日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
論文題目	慢性疾患患者の患者教育を行う看護師のコンピテンシーに関する研究 Educational Competencies of Nurses for Patients with Chronic Illness
	主査 教授 藤田 佐和(高知県立大学)
	副査 教授 畦地 博子(高知県立大学)
論文審査委員	教授 山田 覚(高知県立大学)
	教授 時長 美希(高知県立大学)

#### 論文内容の要旨

【目的】慢性疾患患者の患者教育を行う看護師のコンピテンシーを構成する要素、および患者教育の目標達成に貢献するコンピテンシー項目、コンピテンシーに影響を与える個人および組織要因を明らかにすることによって、患者教育の実践や学習の示唆を得ることを目的とした。

【方法】全国の慢性疾患看護専門看護師または、慢性疾患看護関連の認定看護師が所属する概ね200床以上の318病院に所属する慢性疾患患者の患者教育の経験がある看護師1,127名を対象に質問紙調査を行った。慢性疾患患者に患者教育を行う看護師のコンピテンシーは、文献検討から「慢性疾患患者と家族が病気をもちながら豊かな生活を送るように、自分の実践力を磨きながら関係職種と協働し、患者の目標に合わせた柔軟な学習援助や相談を行う行動や姿勢をもち看護ケアを実践すること」であると定義し、コンピテンシー55項目、患者教育の目標8項目、個人・組織要因8項目、対象者の背景4項目、の質問紙を作成した。分析はSPSS Statistics Ver.22を使用した。分析は、探索的因子分析、重回帰分析、t検定と一元配置分散分析および多重比較を行った。研究実施にあたって、高知県立大学研究倫理委員会の承認、および必要に応じて協力施設の倫理審査会の承認を得た。

【結果】研究協力は100病院536名から得られ、522名の回答を分析した(回収率47.3%、有効回答率98.1%)。コンピテンシー55項目の相関分析で強い相関がみられたコンピテンシー20項目を除外し35項目で分析を行った。探索的因子分析で【継続的な学習計画実施】【生活の理解】【患者を中心にした療養の提案】【関係職種の力の活用】【役割の遂行】の5因子が抽出され、コンピテンシー要素とした。また、コンピテンシー項目35項目を独立変数、患者教育の8目標を目的変数として重回帰分析を行った結果、目標ごとにコンピテン

シー項目が5～7項目選択され、8つのモデルが成立した。特徴のあった患者教育の目標は2つであった。1つは、「患者・家族が豊かな生活を送る助けになる」目標であり、影響するコンピテンシー項目は「患者さんの尊厳を傷つけず、医療者としての意見を述べる」と「関係職種に患者教育の改善案を提案する」の他4項目だった。2つ目は、「患者・家族が病気悪化時の対応ができる」目標であり、影響するコンピテンシー項目は「コミュニケーションする」、「学習をもとに療養生活を改善できるか評価する」の他5項目だった。コンピテンシー項目の平均値が高かった群は、看護基礎教育終了後の資格取得群、看護職経験年数10年以上の群、患者教育経験年数10年以上の群、患者教育実践頻度が高い群、院外学習機会が多い群であった。

〔結論〕慢性疾患患者の患者教育を行う看護師のコンピテンシーの要素は、患者へのかかわりと関係職種との協働、自己研鑽で構成されていると考えられた。また、患者教育の目標の中で患者の生活を豊かにする目標は、看護師が患者の療養生活の変化に向けた提案を行うコンピテンシーが重要であり、患者・家族が病気悪化に対応できる目標は、患者・家族が対処のための具体的行動のために看護師が判断することが特徴であると考えられた。また、コンピテンシーに効果を及ぼす要因は、看護師の経験年数・患者教育経験年数が10年以上あること、基礎教育終了後の資格取得、患者教育実践頻度が多いこと、院外教育の機会を設けることであると示唆された。

#### 審査結果の要旨

本研究は、慢性看護における患者教育の状況を明らかにし、看護実践や継続教育、基礎教育における示唆をえることを目的に行われている。疾患構造が慢性疾患中心へと変化していくなか、慢性疾患患者とその家族が、生活の質を最適に保ちながら生活と療養を続けていくことを支える教育的支援の必要性は高く、医療と生活の視点をもつ看護師はこのような教育的支援で力を発揮できると考えられる。しかしながら、実際には患者教育に対して困難感を感じている看護師もいることが指摘されており、能力概念のひとつであるコンピテンシーという概念を用いて、どのような力が教育的支援に必要なのかを明らかにしようとした本研究は、看護実践、継続教育、学部教育の視点から意義が大きいと考えられる。

本調査では、200床以上の一般病院で慢性疾患専門看護師、または、慢性疾患看護に関する認定看護師が所属している病院318病院のうち研究承諾のえられた100病院に所属する、1127名の看護師に質問紙を配布し、526名から回答を得ている。その過程では、看護研究倫理審査委員会などの承認を得ており、倫理的配慮についても十分な配慮が行われていたといえる。

慢性疾患患者の患者教育を行う看護師のコンピテンシーに関するデータの収集には、自作の質問紙を用いているが、看護学領域のみならず、経済学や教育学の分野の文献をもとに、質問紙項目についても十分に検討がなされている。また、予備調査、およびパイロットテストによる質問項目の洗練化を経て、8つの目標、55項目のコンピテンシー、個人・

組織要因 8 項目、対象者の背景 4 項目を尋ねる質問紙を作成している。本調査の結果から、項目分析、信頼性、妥当性の検討を重ね、最終的には、8 つの目標、35 項目のコンピテンシー、個人・組織要因 8 項目、対象者の背景 4 項目を採用し結果が述べられている。質問紙の精度にも十分な配慮がなされているといえる。

結果では、探索的因子分析で【継続的な学習計画実施】【生活の理解】【患者を中心にした療養の提案】【関係職種への力の活用】【役割の遂行】の 5 因子が抽出され、コンピテンシー要素とされた。これらの因子からは、継続性や生活、関係職種との連携など慢性疾患患者と家族を対象とする患者教育ならではの視点が見いだされている。

また、コンピテンシー項目 35 項目を独立変数、患者教育の 8 目標を目的変数として重回帰分析を行った結果、目標ごとにコンピテンシー項目が 5~7 項目選択され、8 つのモデルが成立した。この結果からは、患者教育の中で、患者の生活を豊かにする目標には看護師が患者の療養生活の変化に向けた提案を行うコンピテンシーの重要性が、患者・家族が病状悪化に対応できる目標には具体的行動のために看護師が判断するコンピテンシーの重要性が示唆されている。

さらに、コンピテンシー項目の平均値が高かった群は、看護基礎教育終了後の資格取得群、看護職経験年数 10 年以上の群、患者教育経験年数 10 年以上の群、患者教育実践頻度が高い群、院外学習機会が多い群であることが明らかになり、臨床での患者教育の経験を積み重ねることの重要性と同時に、継続教育の機会を得ることの重要性が示唆されているといえる。

これらの結果は、この研究の目的である慢性疾患患者への患者教育に関する看護師のコンピテンシーの向上のために、看護実践や継続教育でどのような配慮が必要なのか、具体的な方策を考える上で貴重な資料となり得る結果であると考えられる。

以上のことから、本学位申請論文は、学位授与に値する成果と考えられ、学位審査委員会は学位申請者井上直子が、博士（看護学）の学位を授与される資格がある者と認める。